

## 解説

### 『おばあちゃんの白い鳥』

～鳥は空を飛び、たこは空高くまい上がるのに～

長沢美抄子（中東文化研究家）

2023年10月7日、イスラエルによるパレスチナのガザ地区への攻撃がはじまりました。空と地上からのひどい攻撃が、いま（2024年7月）も続いています。最初の6か月で、少なくとも1万4千人以上の子どもが亡くなったそうです。安全なところはどこにもなく、食べ物も水も足りず、多くの子どもが亡くなり、親やきょうだいを亡くした子もいます。にげだしたくても、どうにもなりません。ガザのまわりは高いかべにおおわれていて、海に出ていくことも禁じられ、いつもきびしく見はられているからです。ガザの子どもたちがうけている心の傷の深さは、想像もできません。

でもこれは、いま急にはじまったことではないのです。

『おばあちゃんの白い鳥』には、10年前の2014年に、作者のマラク・マタールさんが実際に経験したできごとが描かれています。マラクさんの過ごしたおそろしいガザの夏は51日間続き、2200人もの人たちが亡くなりました。それより前も、ガザはこれまで何度か、攻撃されてきたところなのです。

マラクさんの子ども時代から今も変わらない「空へのあこがれ」が、この物語のひとつのテーマになっています。おばあちゃんの鳥が鳥かごを出て、空を、そして世界を飛びまわる夢を見る、マラクさんのような子どもはガザにはたくさんいます。生まれて一

度もガザから出たことがなく、空からの爆弾の音にいつもおびえて生きてきた子たちなので。

恐怖の中、マラクさんは空を見上げ、自由に世界を飛ぶ鳥に自分を重ねて、未来を想像しました。そして絵を描くことで心の傷をなおしていきました。マラクさんはその後も絵を描きつづけ、努力して外国で勉強し、今では注目の若手の画家です。

ガザの子どもが夢中になる遊びに、たこあげがあります。一度にあげたこの数の世界記録をうち立てたこともあるほどです。子どもたちは海岸に集まって空高くたこをあげ、心のつばさを広げて、自分たちも飛んでいくのです。2011年の東日本大震災の直後には、ガザの子どもたちが、東北の子どもたちのために、たこあげをして元気の風を送ってくれたこともありました。

ガザにはかつて国際空港がありました。けれども、空爆のためにわずか3年でなくなってしまいました。残念ながら、空を飛ぶのは、鳥やたこだけではありません。戦闘機も空を飛びます。今ではドローン兵器も空からおそいかかります。

だからこそ、私たちは平和な空、安全な空に見守られて生きていたいと願います。マラクさんが見上げて、自分をなぐさめた同じ空の下、いっしょになかよく生きていける世界になることを夢見ます。夢と希望と愛を失わないで生きぬいて、とじこめられたかごの外へとはばたける日が来ることを、いのらずにはられません。

『おばあちゃんの白い鳥 ガザのものがたり』（講談社、2024年）の紹介は以下の解説をご覧ください。

<https://apac01.safelinks.protection.outlook.com/?url=https%3A%2F%2Fprtimes.jp%2Fmain%2Fhtml%2Frd%2Fp%2F000006517.000001719.html&data=05%7C02%7C%7C470c7e2100fc482cc8b208dcde90a0b2%7C84df9e7fe9f640afb435aaaaaaaaaaaa%7C1%7C0%7C638629959973531281%7CUnknown%7CTWFpbGZsb3d8eyJWIjoiMC4wLjAwMDAiLCJQIjoiV2luMzliLCJBTiI6IjEhaWwiLCJXVCI6Mn0%3D%7C0%7C%7C%7C&sdata=9WnJc%2B3kRkW1UIhBGSIN7CxHjyJfcGfv47viDkxGhk8%3D&reserved=>

0